

# きざらわら

NO.39 月刊

第五輯 題目石蓋 第二号  
昭和廿六年九月一日 發行 (非売品)  
発行所 岡山県都窪郡吉備町庭瀬七〇七 宇垣方  
吉備親光協会

## ○ 中撫川の題目石 (第廿二号の続き)

裏面 嘉永六癸 霜月辰日 (十一月)  
台石の上段正面に「法界」(全女界を佛法によって教化する)とあり。筆法は楷書にして達筆であるが、如何なる人の手になつたものかわからない。近郊では稀れにみる優美な題目石碑である。

## ○ 新屋敷の題目石

須佐也男神社の西、路傍にある。  
一、地上高さ五十二種の三段の台石の上に一三〇種の主石を置く。  
正面 宗祖日蓮大菩薩  
右面 六百遠忌報恩塔  
左面 明治十五年十二月 女中講 建之

## ○ 二、地上高さ六十六種の二段の台石あり。

正面 行覚院日朝上人  
左面 大正二年六月立之 撫川 太田コトミ  
三、地上高さ六十五種の三段の台石の上に一四五種の主石を置く。  
正面 南無妙法蓮華經  
二段目の台石に 右面に「文政三庚辰年建之」 正面に「法界」 左面に「村中安全」の刻文がある。

## ○ 四、三段の台石を有する総丈一三五種のもの

正面 「大覚大僧正」 右面 「天保十四龍集紀二年の終りと云。即ち千の終りと云々の年である三月吉祥焉」(めでたき日のこと) 左面 「風雨順次五穀豊饒」

## ○ 川入の題目石

二段目の台石の正面に「講中」とある。同地内に沿に三庄宮と呼ぶ一小祠がある。祭神并に創立年月は明かでない。古老の説にこの地に庄屋の屋敷があつたという。或はこの屋敷の鎮守ではなからうか。  
川入の本村の公民館の傍にある。東向きにして右より  
一、地上高さ八十五種の三段の台石の上に三十七種の主石を置く  
正面 南無妙法蓮華經 左面 文化十癸酉四月三日  
右面 四百五十遠御忌為報恩 上部の台石の正面に「女講中」

## ○ 二、地上高さ五十二種の二段の台石の上に一六〇種の主石を置く

正面 南無妙法蓮華經 享保第十二月三日 右面 看經講中一結女人  
三、地上高さ四十二種の自然石を横たえた各石の上に上部の尖つた高さ二二種の自然石を置く。表面を階内形に平たく削り「日親上人」と刻み裏面に「四百遠御忌為報恩 明治二十丁亥年九月十七日建之」とあり。  
(第四輯 寺院篇 日親堂参照)

## ○ 西花尻辻の題目石

北側の路傍にあり。右から  
一、自然石の台石の上に七五種の主柱を置く。  
正面 南無妙法蓮華經 日蓮大菩薩 右面 一天四海 天保二年  
建之 左面 皆歸妙法 祈講中安全  
二、自然石の台石の上に一六〇種の主柱を置く。  
正面 南無妙法蓮華經 法界 右面 室曆十三癸亥年 左面 十月十三日 当村講中 四拾人

## ○ 三、高さ二〇種の無縫塔に 表面 大覚大僧正 裏面 大正十年五月建之

高さ二六種の無縫塔に 表面 地神

## ○ 四、高さ二六種の無縫塔に 表面 地神

傍に火袋の破損した石燈籠一基がある。軸石の銘に「文化六年九月吉日」とある。

○東花尾西谷の題目石

道路の北側、南向に九基あり

- 一、自然石にレて高さ一三五種、  
表石 南無妙法蓮華經 妙見菩薩  
裏石 南無妙法蓮華經 現無量神力

裏面 明治三十七年十一月〇〇日 (妙見とは北斗星をまつる)

二、自然石にレて高さ一三八種

表石 南無多宝如来 南無妙法蓮華經

裏面 南無釈迦牟尼佛 南無日蓮大菩薩

裏面 明治三十〇年〇〇〇〇

三、畧

四、自然石にレて高さ一六七種、横一三〇種、  
表石 南無妙法蓮華經 宗祖 日蓮大菩薩

裏面 明治三十七年十月十二日 建之 西谷 信徒中

五、自然石にレて高さ一三五種

表面 維時 明治三十〇年六月三日 西谷 信徒中

道路を隔てた南側に一基あり、高さ一三五種の細長い自然石である。

- 一、表面 南無妙法蓮華經 南無日蓮日朝大聖人
- 裏面 昭和五年十一月〇〇 (口印は文字不明)

○中田の題目石

板倉に通ずる街道の東側に南向の法界堂がある。この堂の裏に四基あり。地上高さ一四八種の二段の台石の上に高さ八一種の主石を置く。上段の台石と主石は自然石である。

正面 大覚大僧正 右面 天保十四癸卯年二月三日

二、地上高さ八五種の三段の台石の上に三六種角、長さ一四八種の主石を置く。

正面 南無妙法蓮華經 日蓮大士

三、石燈籠一基の軸石の銘に「文政五年七月立之 奉獻」

四、法界堂の表に石碑一基あり、低い台石の上に二五種角、高さ一五三種の主石を置く。

南面 一天四海皆歸妙法 西面 末法萬年広宣流布

東面 元治二年二月吉日 北面 母語人塩屋藤三郎 松屋伊助

紺屋作松 竹太郎 備前屋駒助 市蔵 花屋華作 内田屋房太郎

間吉 この母語人たちは中田部落の住人と思はれるが、百余年後の今日その子孫はど

○福富の題目石

足守川の東堤防のもとに繁茂する榎樹二株がある。その根元に  
一、地上高さ一五〇種の無縫塔に 南無妙法蓮華經。台石に 法界萬靈。  
二、地上高さ一六五種の石燈籠の軸石に 正面 大覚大僧正、右面 文政七  
甲申年、左面 十月大吉日。

足守川の西堤防、俵尾用水路の取入口になつてゐる並一樋の上手にある。右より地神 一基。大覚大僧正 一基。いづれも高さ一五〇種の無縫塔である。その左に列んで「南無妙法蓮華經」と正面に刻み、左右両面には「文化八年三月十三日建立之」「後五百歳中広宣流布し」とあり、台石に「法界 多村中」の文字が読まれる。

○

下東の題目石  
下撫川の下東から御本壇にゆく三叉路の處から西へ約二十米、つた南側に四基を置く。右より

一

地上高さ三種類の台石の上に一四八種の主石を置く。

二

正面 南無妙法蓮華經、右面 文政十<sup>丁</sup>八月吉日、左面 下撫川村中

三

地上高さ二八種の台石の上に一五八種の自然石の主石を置く。

四

正面 長さ一七種、幅四一種の部分を手たに彫り、大峯山上文権現、金毘羅

五

右面 文権現、吉備津大明神と刻み下部に三体の佛像を浮彫りす。

六

低い台石の上に二八種の自然石を置く

七

正面 地神社、左面 天保六<sup>乙未</sup>二月吉日

八

地上高さ三五種の二段の台石の上に三種類の高さ一五種類の主石を置く。

九

正面 大覚大僧正、右面 明治四年、左面 四月三日。

十

上段の台石に講中とある。道路を隔てた北側に一小祠がある。俗に世雲様といふ。出雲社の分霊を奉祀したものである。初建は明かでないが藩政時代この地は撫川内川の築地にして上撫川

千九百三十三石一千三十一合を管理していた大庄屋難波純一郎の屋敷である。いまは建物全部取壊されて、かもと難波氏の鎮守として奉祀したことは確かである。縁結びの神と崇められ又いつの頃から腫物に

○

東平野の題目石

一

庭瀬駅の東、平野踏切の南側の路傍に西面して三基ある。右より

二

火袋が破損して軸石と笠石のみの石燈籠一基。復元すれば高さ一七種

三

位のもの、軸石に「寛政十一未年 講中」とある。

四

地上高さ五五種、二段の台石の上に三五種角、高さ一五種類の主石を置く。

五

正面 南無妙法蓮華經、右面 普天明七<sup>丁未</sup>未歲、左面 七月十三日建

六

也。上段の台石に 法界 とある。(此言は時の古字である)。

七

地上高さ四九種の二段の台石の上に三種類の角、高さ九五種の主石を置く。

八

正面 大覚大僧正、右面 弘化三丙午年、左面 四月三日建也。

九

道路を隔てた西側に石地藏尊を祭る地藏堂と御崎靈神の小さな宮がある。その左側に悪疫の神といわれる本野山神社がある。

十

西平野前川の題目石

一

鉄道線路の無人踏切の南側、路傍にある。

二

地上高さ九三種の自然石に 水神

三

地上高さ五五種の自然石に 南無妙法蓮華經 明治八<sup>乙未</sup>乙未歲七月吉日

四

講中両前川 為難舟精靈 祭主 日正

五

これは舟の禍いによつて死んだ靈魂を祀つたものであるが、明治廿七年に線路が敷設せられ踏切が併走したので、つしれか交通事故のために建てられたものと思ひ昔々を供えて交通安全を祈つてゐる。

六

性寺参道の題目石

一

旧回道から南へ入る角の東路傍に六基ある。右から

二

地上高さ一五三種、二段の自然石の台石の上に同じ自然石の主石を置く。

三

正面 南無 日親大上人 (年号はない)

四

日親大上人

五

日親大上人

六

笠石を有する三種類の角、高さ二五種類の豊島石造であるが、甚だしく風雨

七

笠石を有する三種類の角、高さ二五種類の豊島石造であるが、甚だしく風雨

八

笠石を有する三種類の角、高さ二五種類の豊島石造であるが、甚だしく風雨

九

笠石を有する三種類の角、高さ二五種類の豊島石造であるが、甚だしく風雨

十

笠石を有する三種類の角、高さ二五種類の豊島石造であるが、甚だしく風雨

三、に晒されて表面の銘字は堙滅して判読しがたい。構造から推測して相当年代を経ているものと想像せらるる。

四、北上高さ九五種の三段の台石の上に三。種角、高さ九五種の主石を置く。  
正面 南無妙法蓮華經、右面 善文化七庚午天四月三日、老田 観音堂、女中講中立之、左面 後五百歳中成宣流布。  
上段の台石に 法界とある。(老田は四部落名で縣前附近である)。  
低い台石の上に高さ二六種、幅八一種の自然石を置いてゐる。表面を平たく削り、  
当知是知、南無日蓮大菩薩、裏面に明治九年四月六日遠忌、  
即是道場、台石に男女信者中。

この大石碑は安原栄吉、太田俊三郎、永原藤造、太田玉郎吉、若藤芳之助等が發起人となって当時寄附金参銭五銭の淨財を募り観音堂の妹尾屋安原栄吉の所有地へ建てたが昭和十九年にここに移して祭祀したものである。(人間には不幸、運不運がある。その或べきを脱して理りを解かなければならぬ。即ち悟りをいらく修業の所と解すべきか)。

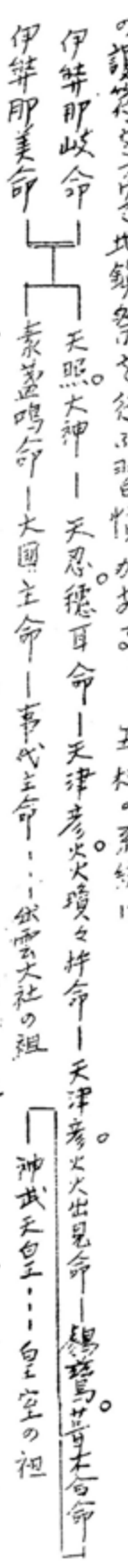
五、低い台石の上に幅五種、高さ二〇種の自然石を置く。表面を平たく削り、大覚大僧正 弘化二己年四月廿八日 当邑中 と刻んでゐる。

六、高さ七五種の三段の台石の上に高さ九五種、三。種角の主石を置く。  
正面 南無妙法蓮華經、右面 文政六癸未十一月吉日、左面 大覚大僧正 上段の台石に 正面 法界、左面 施主構(講)中 とある。  
参考、了性寺は昔現在の位置から百米ばかり南へ寄つた所にあつてこの石碑の道ならまうまうに行かれたが、庭瀬駅設置ととも現地に移轉したものである。駅の南裏に当寺の墓場がある。これは線路が敷かれて境内が分断せられたのである。

○ 長野の題目石  
庭瀬駅の西、長野踏切々南へ越えた道路の東側に三基ある。右より七

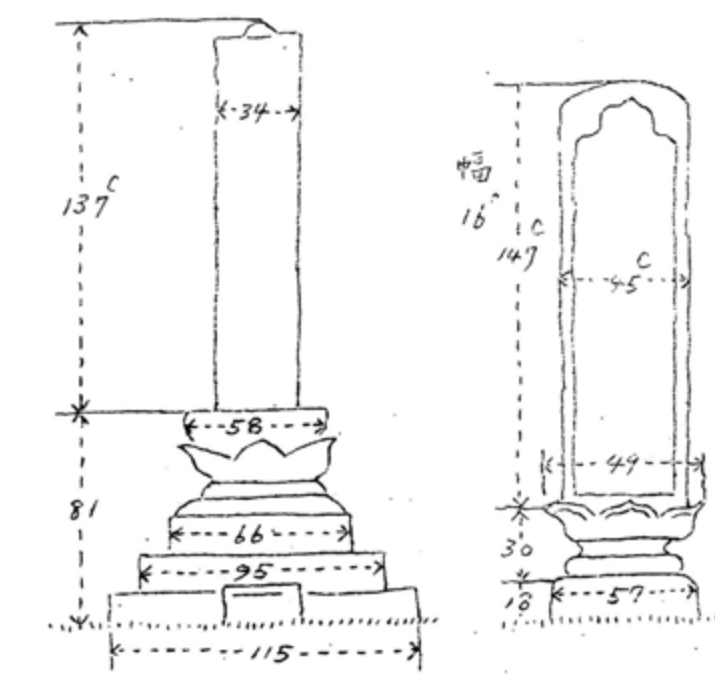
一、火袋の破損してない石燈籠がある。復元すれば一六四種になる。軸石に 奉寄進 在話講中 寛政十年午二月吉日 とある。

二、地上高さ六四種、上部の尖つた石碑、堅牢地神 とある。  
(地神とは地祇とも書く。古来からの俗説によると古より我が國を守護する五柱の神々を祭祀するものがある。昔から全國の津々浦々に石塔をたてて國土安泰を祈るのである。家屋建築事業をなす時に四周に竹をたててこの地神の護符をたてて地鎮祭を行ふ習慣がある。五柱の系統は



三、地上高さ一九五種、台石に蓮台を配してゐる。豊島石造にして、表面に華燈形の輪郭を不れてゐる。風雪のため全体に堙滅し刻字なども定かでない。里人は大覚大僧正様といつて崇信してゐる。

四、この石碑の右側に大半破損した高さ三五種の煉瓦造の観音堂がある。内部に三十種ばかりの石面に佛体を浮彫りしてゐる。この観音堂はもと二〇から西南へ約百米いつた所に祭つてあつたが昔現地に移したといふ。



(上部見取図の右は大覚大僧正様といわれるもの。左は中撫川香神堂境内の題目石碑)

- 右面 象馬車牛羊犖輿車來
- 左面 正善院十二代 長野村中
- 正面 南無妙法蓮華經
- 左面 口妙象馬車珍室之犖輿
- 文化十丁亥天八月吉祥日



この塔は佛様が宝物を載せて来る「楽園の郷、或は平和の村」といふ義に於て萬民がこれを祈れば「安居樂業、五穀豊饒」が迎えられ幸福な境涯が招来する、と佛典には教えられている。正善院十二代とあるは任職遠成院日弄上人にして文政十一年二月十七日六十四歳で示寂してゐるので、四十九歳の時の建立である。他に二基あるも豊島石造にして風化甚だしく石面の文字は読みにくい。

○ 関戸の題目石

- 一、六間川堤防上にある。尖形の自然石にして高さ七六種。
- 二、南無妙法蓮華經 天保四癸巳年十月十三日 関戸村中 住持人 坂右エ門
- 三、七百十四番地大飼健治の庭先にある。もとお寺の上にあつたが明治の中期河川改修工事の時、ここに移したものである。二段の台石を有する総高三六種、主石は幅が七四種ある自然石である。
- 四、南無妙法蓮華經 法界万点(霊) 天明元丑天七月十三日 大飼喜右衛門。

○ 近友の題目石

決に通がる道路が北村へ岐れる處の三又路に四基ある。

- 一、地水両神
- 二、南無妙法蓮華經 南無目蓮大菩薩 寛政四壬子天十月十三日 当村中 奉唱題目千部供養塔
- 三、南無妙法蓮華經 大覚大僧正 天保五甲午歲四月三日 当村中 窓前天子守 文政十丁士歳 七月廿四日 (ハッブルリ寸法を畧す)。
- 四、忠魂碑篇 (第五輯) 樵川の忠魂碑 吉備町の文化センターの建物の傍にある。

高さニ未余の自然石に 表面「忠魂碑 陸軍大將 一戸兵衛書し 裏面 戦痕死者芳名

- 日清戦役 陸軍砲兵上等兵 斎藤勘四郎
  - 北清事変 陸軍輜重輸卒 前田市五郎
  - 日露戦役 陸軍歩兵上等兵 坪井竹三郎
  - 同 陸軍歩兵一等卒 枝松金次郎
- 昭和四年四月建之 帝國在御軍人会 樵川町分会 發起 大寺 寺下憲治刻

この碑は樵川町の下樵川、中樵川、大内田、日畑東組の勇士である。一戸兵衛は当時岡山に第十七師団が置かれていた時の師団長を勤めた人である。

○ 吉備小学校々庭の忠魂碑


正門を入った右側にある。

一、高さ十米、コンクリート造りにして表面に大書する「忠魂碑」の三字は元法務大臣大養 健の筆である。下部に日清戦争以来各戦役に従軍し志烈悲壯な戦死した勇士の氏名を銅板に刻み列記してゐる。中正院の忠魂碑。千手寺の忠魂碑。真如院の旌表碑は別項参照。(おわり)

毎日飲んで

# 難波牧場

吉備町延友  
TEL. 368, 乙



吉備町 本町

# 矢尾齒科医院

吉備局電話一七番